田嶋智太郎の FX レポート☆彡　　２０２４年０１月０４日更新分

■　いまだ市場の米早期利下げ期待は覆されていない…

まずもって、このたびの能登半島地震において被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。心穏やかに過ごせる日が１日でも早く訪れることをお祈りしております。

既知のとおり、金融市場では今回の震災により「日銀が政策変更に踏み切る時期が想定よりも先送りされる」との見方が強まっている。その結果、昨日（３日）のＮＹ時間にはドル／円が一時的に１４３．７０円処まで上値を伸ばす場面もあった。

むろん、心情的には「このような状況下で円を積極的に買い上げることなど容易には受け入れがたい」との思いもある。日銀が政策判断の場において震災の影響を十分に考慮するのも当然のことである。ただ、現実的に考えると、やはり当面の円の下値は自ずと限られたものに留まりやすいのではないかと思われる。

第一に、日銀がマイナス金利の早期解除に踏み切るとの一頃の見方が少々先走り過ぎであったことは、すでに市場で広まっていた。前回（昨年１２月２８日）更新分の本欄でも述べたが、昨年末に公表された『金融政策決定会合における主な意見』の内容は、市場に広がる観測に比して「ずっとハト派寄り」ということが改めて確認されるものであった。

意見の中には「来春の賃上げが予想よりかなり上振れたとしても、そのために基調的な物価上昇率が２％を大きく上回ってしまうリスクは小さい」、「来春の賃上げ交渉の動向を見てから判断しても遅くはない」などといったものがあり、こうした日銀内での政策論議の内容からすると、マイナス金利解除のタイミングについて「来年４月と見るのもやや先走りではないか」と思われるところもあった。実際、この『主な意見』を受けてドル／円は一時１４２．８５円まで上昇する場面があったわけである。つまり、日銀の慎重な姿勢は今回の震災前からのものである。

ドル／円(日足)23年6月～

なお、このときのドル／円の上値が２００日移動平均線（２００日線）によって押さえられる結果となったことはまだ記憶に新しい（左図参照）。そして昨日、ドル／円は再び２００線を試す動きとなり、一時的にも同水準を上抜けたが、いまだ「明確に上抜けた」とは言えない状態にある。

また、足元はドルの上値を積極的に買っていくことも少々躊躇われる状況にある。昨日、公表された前回開催分の「米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）議事録」の内容は、少なくとも市場における早期米利下げ期待を覆すほどのものではなく、むしろ公表後は一旦ドル安・円高方向に振れることとなった。

また、昨日発表された１１月の米求人件数が市場予想を下回り、同時に発表された自発的離職者の割合＝離職率も２０年９月以来の低い水準となったことがわかり、米労働市場が徐々に冷え込んで行っている様を如実に示すものとなった。もちろん、目下最大の注目は明日（５日）発表される１２月の米雇用統計ということになるが、これも先に公表されたＦＯＭＣ議事録と同様、市場における早期米利下げ期待を覆すほどのものにはならない可能性が高いと個人的には見る。

その場合、あらためてドル／円は昨年１２月安値の１４０．２５円や６２週移動平均線（６２週線、現在は１４０．１７円に位置）を試す可能性が高まると見られ、仮に同線を下抜けると、次に一目均衡表の週足「雲」上限（現在１３９．５８円処）が意識されやすくなると見られる。

むろん、結果次第でドル／円が２００日線をクリアに上抜ける可能性もあるが、あくまで戻り売りが基本になると考えたい。　　（０１月０４日　１０：５０）